

生き生きと活動し、考えを伝え・深めていく児童の育成 ー振り返りと伝え合う活動を通してー

1. 設定理由

創立144年を迎えた本校は、地域に古くから残っているものや豊かな自然に恵まれている。しかし、新しくできた団地から通学している児童が4/5以上を占める今、子どもたちは地域のよさを知らないことが多い。また、単学級のため6年間クラス替えがなく、お互いの思いや考えを伝え合い高めていく力が育ちにくい環境にある。

そこで、2年生の「わたしの町はっけん」の単元において、児童の思いや願いを大切にしながら地域のよさに気付かせるような体験をさせたいと考えた。また、その体験を伝える活動を繰り返し行うことで、気付きを深めていきたいと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

○一人ひとりの思いや願いを大切にしたい体験を工夫すれば、関心・意欲が高まり、生き生きと活動するであろう。

○伝え合いの方法を工夫すれば、気付きの質が高まり、自らの考えを深めていくことができるであろう。

3. 研究内容

○「わたしの町 はっけん」2学年

①児童の思いや願いを知るために、実態調査や振り返りを行う。

②2回の体験活動と2回の表現活動を、方法を変えて繰り返して行う。

4. 結論

○実態調査や振り返りをとおして、児童の思いや願いを把握するように努めたことで、意欲をもってとりくむことができた。

○児童の見方や考え方が広がるように、地域に残る古い物や自然・地域の人と関わるような探検を加えたことで、地域のよさや地域の人の願いに気付くことができた。

○1回目の発表会で、クラスの児童間で体験を交流させたことによって情報が共有でき、2回目の探検への意欲が高まり、一人ひとりが目的をもつことができた。

○1回目は「床地図と看板でクラスの友だちに伝える」、2回目は「ポスターで友だちや家の人・地域の人に伝える」と表現の方法と相手を変えて行ったことで、徐々により深く地域のよさを考えることができた。

印旛支部

四街道市立旭小学校

沖山 早智子

坂内 信哉

1 研究主題

生き生きと活動し、考えを伝え・深めていく児童の育成
～振り返りと伝え合う活動を通して～

2 主題設定の理由

(1) 地域や児童の実態から

本校は明治6年開校で、創立144年を迎える四街道市内でも最も古い歴史をもつ学校で、学区には何世代にも渡り本校の卒業生という家庭もある。

現在は、全校児童が150人（各学年単学級6＋特別支援学級2）の小規模校であり、40～50年前より開発された住宅地から通う児童が全体の4/5を占める。保護者は学校に対して協力的で、親しみをもっている。

児童は明朗で素直な気持ちを持ち、種々の活動に意欲的に取り組むことができる。学校全体が、家庭的で温かい雰囲気である。反面、クラス替えがなく、人間関係が固定化したり、向上心や競争意識に欠けたりする面が見られる。周囲の人とのコミュニケーションの機会が限られており、仲間と共に考え、関わり合いながら伸びていこうとするまでには至っておらず、自分の考えを伝え合うことで、お互いを高め合うことが課題となっている。

(2) 学習指導要領から

生活科の教科目標は「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。」である。

生活科においては、児童が体全体で身近な環境に直接働きかける創造的な活動が最も重視される。直接働きかけることは、児童が一方的に身近な人々、社会及び自然に働きかけるだけでなく、対象から児童に働き返してくるという双方向の活動になる。そのかかわりあいの中で、児童が個々の思いや願いを持ち、生き生きと活動する姿がのぞまれる。また、活動や体験をその場限りで終わらせるのではなく、体験したことを伝え合い、交流する中で、気づきの質が高まったり、新たな考えを創造したりすることができる。児童が主体となり、自ら課題を見付け、考え、解決していく資質や能力を培っていくことを目標に本主題を設定した。

平成32年度から実施される新学習指導要領では、生活科の目標は『具体的な活動や体験を通して、「身近な生活に関わる見方・考え方」を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のように育成することをめざす。』

- ①活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活の場に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
- ②身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え表現することができるようにする。
- ③身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

となっている。

三つの柱

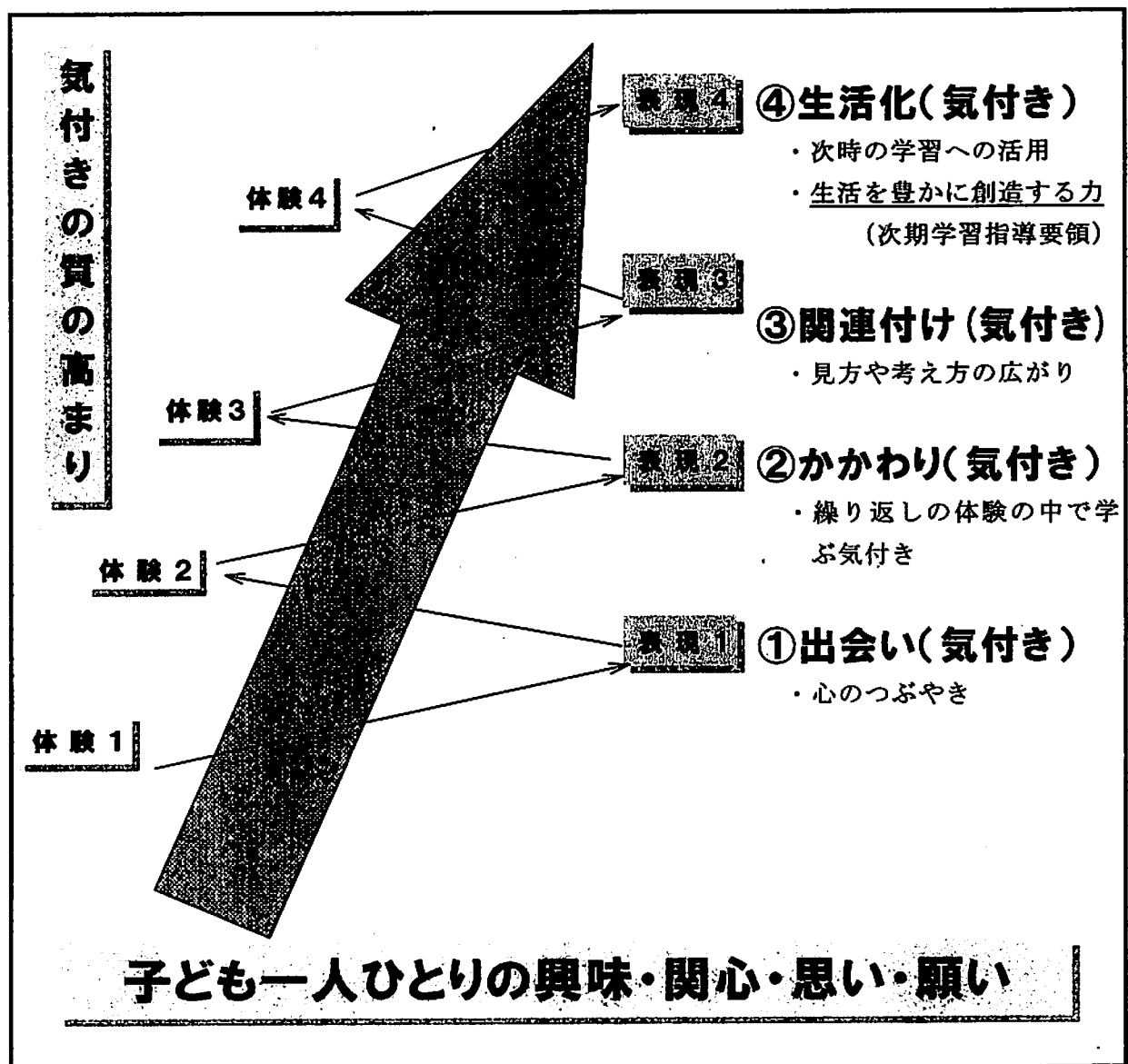
全ての教科に共通して「三つの柱」が教科目標として定められている。

- ①「知識・技能の基礎」
- ②「思考力・判断力・表現力等の基礎」
- ③「学びに向かう力・人間性等」

このように次期学習指導要領でも、意欲的に学習する児童の育成、考え表現する力の育成が謳われている。

以上、地域や児童の実態・学習指導要領・次期学習指導要領の趣旨も踏まえ、考えを伝え合い深めていく児童の育成を目指して研究主題を設定した。

3 【気づきの質の高まり構造図】（仮説のもとになる考え）



4 仮説について

仮説 1

一人ひとりの思いや願いを大切にしたい体験を工夫すれば、関心・意欲が高まり、生き生きと活動するであろう。

<手立て>

- (1) 児童の思いや願いを知る。(実態調査や振り返り)
- (2) 思いや願いを生かした指導計画を立てる。
- (3) 繰り返し体験させる。
- (4) 他教科、3年社会科や総合的な学習の時間への橋渡しをする。

仮説 2

伝え合いの方法を工夫すれば、気づきの質が高まり、自らの考えを深めていくことができるであろう。

<手立て>

- (1) 伝える方法の工夫
- (2) 伝える相手
 - ①学級内、異学年
 - ②保護者、地域の人たち

5 実践例

1 単元人 わたしの町 はっけん (2学年)

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の内容

- (3) 「自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。」
- (4) 「公共物や公共施設を利用し、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれを支えている人々がいることなどが分かり、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用することができるようにする。」

(8)「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。」

を受けて設定したものである。

児童は、家庭と学校を核にして地域の施設や人々に見守られ支えられている。しかし、そのことを意識できていない児童もいる。そこで本単元では、繰り返し通学路を歩いたり、進んで地域の自然や人と関わったりすることで、どの子も自分たちの地域の人や場所のすばらしさに気付き、親しみや愛着を深められるようにするものである。

この単元は2学年2学期の単元であり、3学年の総合的な学習の時間の地域学習へのつながりを考えて指導していきたいと考える。地域の人々の暮らし、地域の自然や伝統的なものなどへ目を向けるきっかけとなるように、地域の人々の協力を得ながら地域教材の活用を行ってきたい。

また、学校を中心とする自分たちの周りの地域の様子を表す方法として簡単な絵地図を作ることも行い、3学年の社会科の学習へとつなげていきたい。単元の終わりには、学習のまとめとして地域の方々や保護者を招いて発表会を行い、地域の人々と双方向に情報や思いなどを交流するようにする。自分たちの生活が、地域のたくさんの人々や場所に支えられつながっていることに気付かせ、地域への愛着を深めさせていきたい。

(2) 児童の実態

(男子14人、女子16人 平成28年9月5日実施)

質問	回答
①生活科の学習は好きですか。 なぜですか。	好き 25人 どちらかと言えば好き 5人 (理由) 町探検や虫探しが楽しい 17人 植物を育てるのが楽しい 6人 いろいろなことが分かる 3人 外に出かけられる 3人 生活が好きになる 1人 どちらかといえばきらい 0人 きらい 0人
②家の周りの地区で、友だちに自慢したい場所や人、ものなどがありますか。 できたら地図をかいてください。	・公園 6人 ・自分の家やおばあちゃんの家 5人 ・神社 3人 ・施設や商店(お寺、温水プール、そば屋、三河屋、公民館、消防署、コンビニ、商店街、うぶすな様) 9人 ・自然(田んぼ、カブトムシのいる森など) 3人 ・人(お花をくれる人、野菜をくれる人、犬の飼

	い主、パンダの絵を集めている人) 4人
③町探検で、行ってみたいところはどこですか。	・大隆寺 5人・総合公園 4人・コンビニ 4人 ・公園 3人・友だちの家 2人・神社 3人 ・公民館 2人・旭中 2人 ・その他 4人 (おばさんの家、三河屋、そば屋、森) ・分からない 1人
④また、そこで何を見たい (したい) ですか。	・どんなところか調べる 7人 ・遊びたい 8人 ・建物の中を見たい 3人 ・自然を調べたい 5人 ・その他 4人 (絵を描きたい、お祭りを見たい、お参りをする、階段が何段あるか) ・分からない、未記入 3人
⑤町探検で調べたことや分かったことをどうやってまとめたいですか。	・絵、ポスター、紙芝居 5人 ・詳しくまとめる、正確にまとめる、順番に気を付ける、たくさん書く、簡単にまとめるなど 8人 ・分からない 17人
⑥発表するとしたら、誰に聞いてほしいですか。	・家の人 21人 ・友だち 4人 ・お寺のお坊さん 2人 ・その他 (旭中の生徒、先生) 2人 ・分からない 1人

本学級の児童は、全体的にどの教科でも意欲的に学習に取り組む児童が多く、生活科の学習についても全員が好きと答えている。自然と触れ合い体験的な学習ができることが魅力になっているようである。

1学期には、「春のまちではっけん」の単元で通学路のおすすめの場所やものを紹介し合い、学級全体で学区探検を行った。自分の住んでいる地区だけでなく、友だちの住んでいる地区にもいろいろなお店や施設、公園などがたくさんあることが分かり、「また探検に行きたい。」と多くの児童が話していた。

実態調査②③から、本校の学区の特色である古いお寺や神社などは、気にはなっているものの詳しくは知らず、自慢として挙げている児童は少なかった。また、住宅地の中に残されている自然にもあまり目が向けられていない。これまで行ったことのある公園を自慢としている児

童が多いことが分かった。そこで、地区の人々が大切に残しているお寺や神社、自然などを探検場所の一つとしたいと考える。

児童は今回の町探検で、初めて調べたことをまとめて発表するため、具体的なイメージをもてていないことが分かった。どうやってまとめるか「分からない」と答えている児童が半数以上いる。まとめ方や発表の仕方については、誰にどのように伝えるかという目的意識をもたせて、丁寧に指導する必要がある。

(3) 指導観

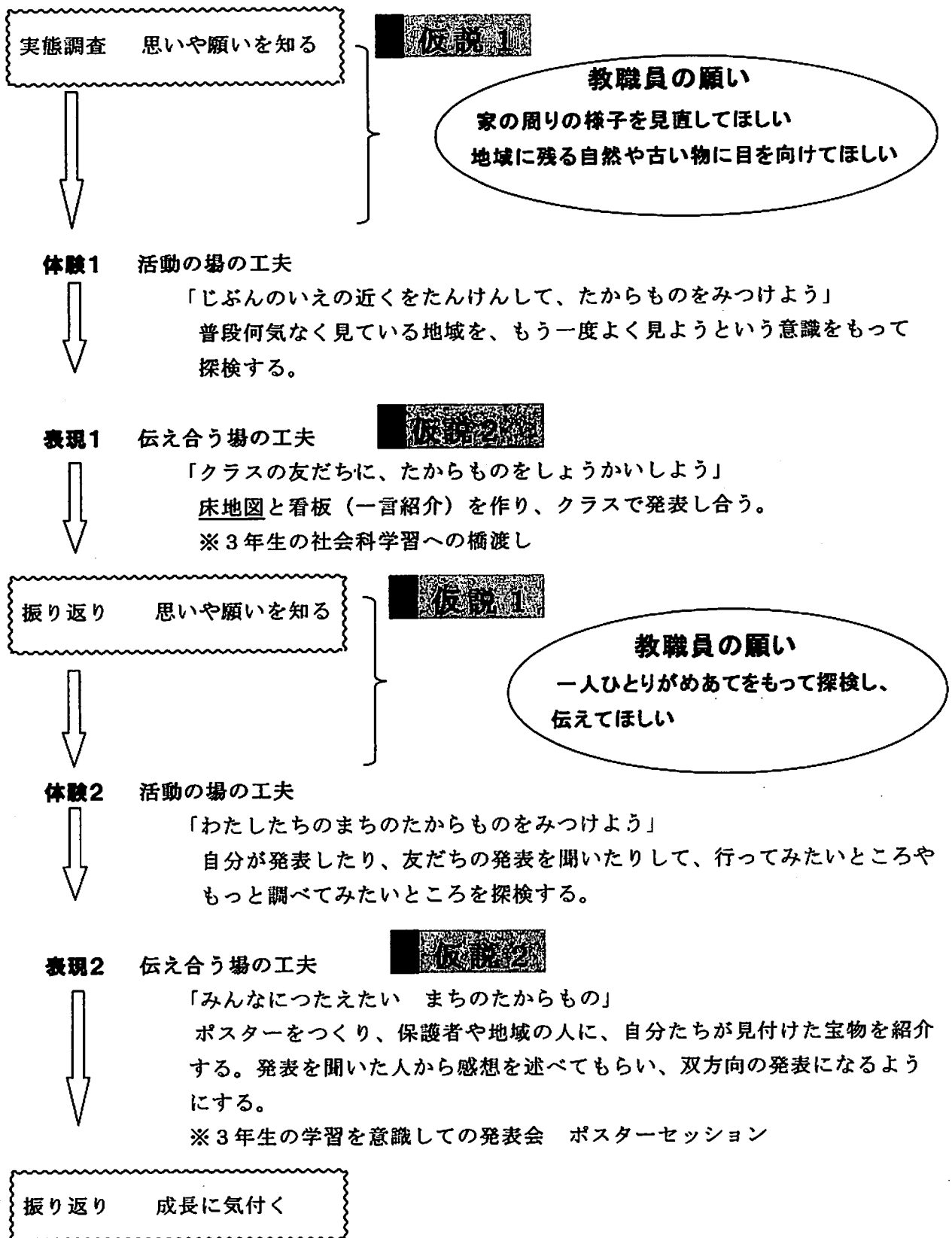
2年生になり児童の行動範囲は広がり、いろいろな所に遊びに出かけることが増えているものの、自分の家の周りや通学路、よく遊ぶ公園や友だちの家の周りなどの場所が線でつながらず点で存在している。住んでいる地区のことでも知らないことが多いようである。

そこで、「町にははっけんがいっぱい」の小単元の指導にあたっては、まず自分の家の周りや通学路にしっかりと目を向けるようにさせたい。地区ごとのグループで1回目の町探検を行うことで、「確かめよう。」「もっと探そう。」という目的をもたせるようにしたい。各地区には、児童が『たからもの』と気付いていない人やもの、場所などもあるので、地域の人達へのインタビューを通して、気が付きが深められるようにしていきたい。1回目の町探検の後に学級内で『ミニ発表会』を行い、学校を中心とした各地区の様子を紹介し合う活動を行う。このような活動を通して、自分の住んでいる地区への愛着を深めさせていきたい。

次に「みんなのはっけんをあつめよう」で、2回目の町探検に向けて学習を進める。「自分の住んでいる地区の〇〇を友だちに教えたい。」「友だちが紹介してくれた〇〇を確かめたい。」など、一人ひとりの児童の思いをもとにグループ編成をして町探検を行う。次の小単元で、地域の人や保護者に地域の『たからもの』を紹介するという目的も意識して探検を行えるようにしたい。「まちのひとにつたえよう」では、地域の方々や保護者を招いて自分たちが見つけた『たからもの』を発表する。ポスターセッション形式で、聞いている人にも意見や感想を聞く場を設け、双方向の発表になるようにしたい。

<仮説との関わり>

今回の単元は探検を2回、発表を2回行うこととした。体験のめあてをもたせ、伝える相手や表現方法を広げていくことで、考えを深めていきたいと考えた。



3 単元の目標

- (1) 自分たちが住む町を探検し、地域に残る古い物や自然などや、それらに関わる人に出会いながら、旭小の学区への親しみと愛着を深めることができる。
(関心・意欲・態度)
- (2) 自分の好きな場所や人、心に残った出来事などを床地図やポスターなどの方法で表現し、友だちや地域の人に知らせることができる。
(思考・表現)
- (3) 学区には古くから残っているものや豊かな自然があることや、地域の人々の願いがあることに気付くことができる。
(気付き)

4 指導計画（30時間扱い）

小単元「町にははっけんがいっぱい」

12時間

時配	主な学習活動	評価規準（観点）
1	・春の町探検を思い出し、自分が好きな場所や人を書く。	・地域の様々な人やもの、場所に関心をもって紹介しようとしている。 (関心・意欲・態度)
2	・家が近所の友だちとおすすめを紹介し合う。	・紹介カードに書き表す活動を通して、町の宝物の人や場所について考えている。(思考・表現)
2	・町を調べに出かける計画を立てる。	・友だちと相談しながら、探検したい場所や人、ものを決め、探検コースを考えている。 (思考・表現)
2	・グループごとに町探検をする。	・見学やインタビューを通して、町の宝物を見つけようとしている。 (関心・意欲・態度)
4	・町探検のまとめをする。 自分たちの地区の地図を作る。	・グループの友だちと話し合いながら探検したことを床地図に表そうとしている。(思考・表現)
1 (本時)	・見つけたことや出会った人を他のグループの友だちに発表する。	・床地図を使い、見つけた宝物を発表している。 (気付き)

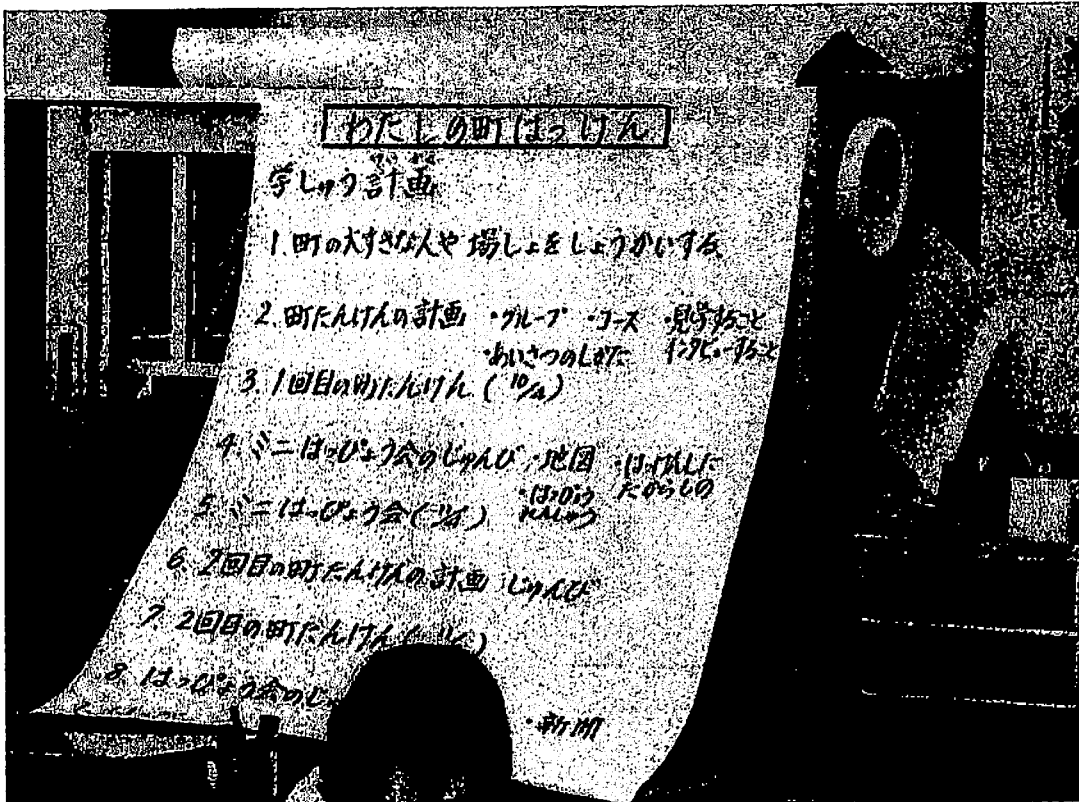
小単元「みんなのはっけんをあつめよう」

13時間

- | | |
|--------------------------|---|
| ・コースや調べることや調べ方などの計画を立てる。 | 2 |
| ・グループごとに町探検をする。 | 4 |
| ・発見した町のたからものを発表する準備をする。 | 5 |
| ・発表の練習を行う。 | 2 |

- ・ 地域の人や保護者を呼んで、発表会を行う。
- ・ 学習の振り返りをする。

教室に掲示した学習計画



5 本時の指導 (12/30)

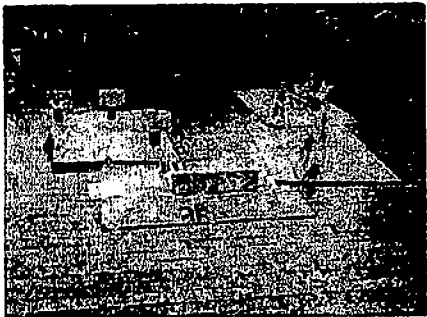
(1) 目標

- ・ 自分の好きな場所や人、心に残った出来事などを表現し、友だちに知らせようとしている。
(関心・意欲・態度)
- ・ 床地図と一言看板を使って、自分の好きな場所や人・心に残った出来事などを、分かりやすく友だちに伝えている。
(思考・表現)

(2) 仮説との関わり

本時は、各地区ごとに行った1回目の町探検で発見した『たからもの』を学級内で伝える時間である。学校を中心とした床地図を作り、学校との位置関係をつかませ、3年生の社会科の学習へつなげていくようにした。また、「いいな。」「すごいな。」と思うことをまとめさせ、床地図に看板(一言紹介文)として付けて、分かりやすく友だちに伝えられるようにした。自分の家の周りのすてきな場所や人を、友だちに発表する機会を設けることで、よりはっきりと『たからもの』が意識できると考えた。また、友だちの発表を聞くことで知らなかったことを知り、次の探検への目的がもてるであろう。

(3) 展開 (12/30)

時配	学習内容と活動	指導・支援 ○評価	資料
5	1 本時の学習内容を知り、めあてを確認する。 町たんけんで調べたことを友だちに伝えるんだね。 町たんけんで見つけた『たからもの』をはっぴょうしよう。	学習計画を見ながら、まだ途中の発表であることを確認する。	学習計画
35	2 グループごとに発表する。 ・旭ヶ丘①(5人) - 旭ヶ丘しょうてんがいをたんけんしました。 - 交番もありました。 - 商店街の〇〇さんにインタビューしました。 ・旭ヶ丘②(6人) - 三河屋は安いです。 - 中山そばはおいしいです。 - 大隆寺の人にお話を聞きました。とても古いお寺です。 ・上野、和田(4人) - 坂を下りると田んぼがあります。 - 坂を上ると旭中があります。 - 神社があります。 - 旭中の先生にインタビューしました。 - そうごう公園は広くてたくさんあそべます。	- 発表を聞いて友だちに「行ってみたいな。」と思ってもらえるといいことを確認する。  - 教室の中心に「旭小学校」と周辺の道路を示した床地図を置き、これから各地区の床地図が置かれていくことを意識づける。 - 発表は、次の手順で行うことを確認する。 ①探検コースを言う。 ②一人ずつ探検で一番いいなと思ったことを発表する。 - 一番「いいな。」と思ったことは予め看板に書いておき、発表後に床地図に置けるよう	床地図 発表資料(看板) 写真

・みそら①（４人）

- ・ダイヤモンド公園は、セミがたくさん羽化します。
- ・青柳さんに「ほたるの里」に連れて行ってもらいました。
- ・高橋さんの家で、キンセンカの種まきをしました。

・みそら②（４人）

- ・家がたくさんあります。
- ・バス通りに近いところにこうみんかんやしょうぼうしょがあります。
- ・しょうぼうしょの人にインタビューしました。

・山梨①（３人）

- ・Rさんの家の近くに田んぼや小名木川がありました。
- ・松源寺という古いお寺がありました。

・山梨②（４人）

- ・森があります。夏にはかぶと虫がとれます。
- ・坂を下りると田んぼがあります。Kさんの家の近くです。
- ・香取神社でお祭りががあります。
- ・〇〇さんのおばあちゃんから話を聞きました。

5

3 発表の感想を話し合う。

- ・たからものは何かな。
- ・もっと知りたいことは。

にしておく。

- ・場所や人の写真を用意しておく、床地図に貼るようにする。



- ・各グループ５分くらいで発表できるように事前準備をしておく。
- ・学校を中心に、各地区のおよその方位を確認するようにする。
- ・全体に聞こえる声の大きさかどうか意識させる。

○自分の好きな場所や人、心に残った出来事などを表現し、友だちに知らせようとしている。（関心・意欲・態度）

【発言・行動観察】

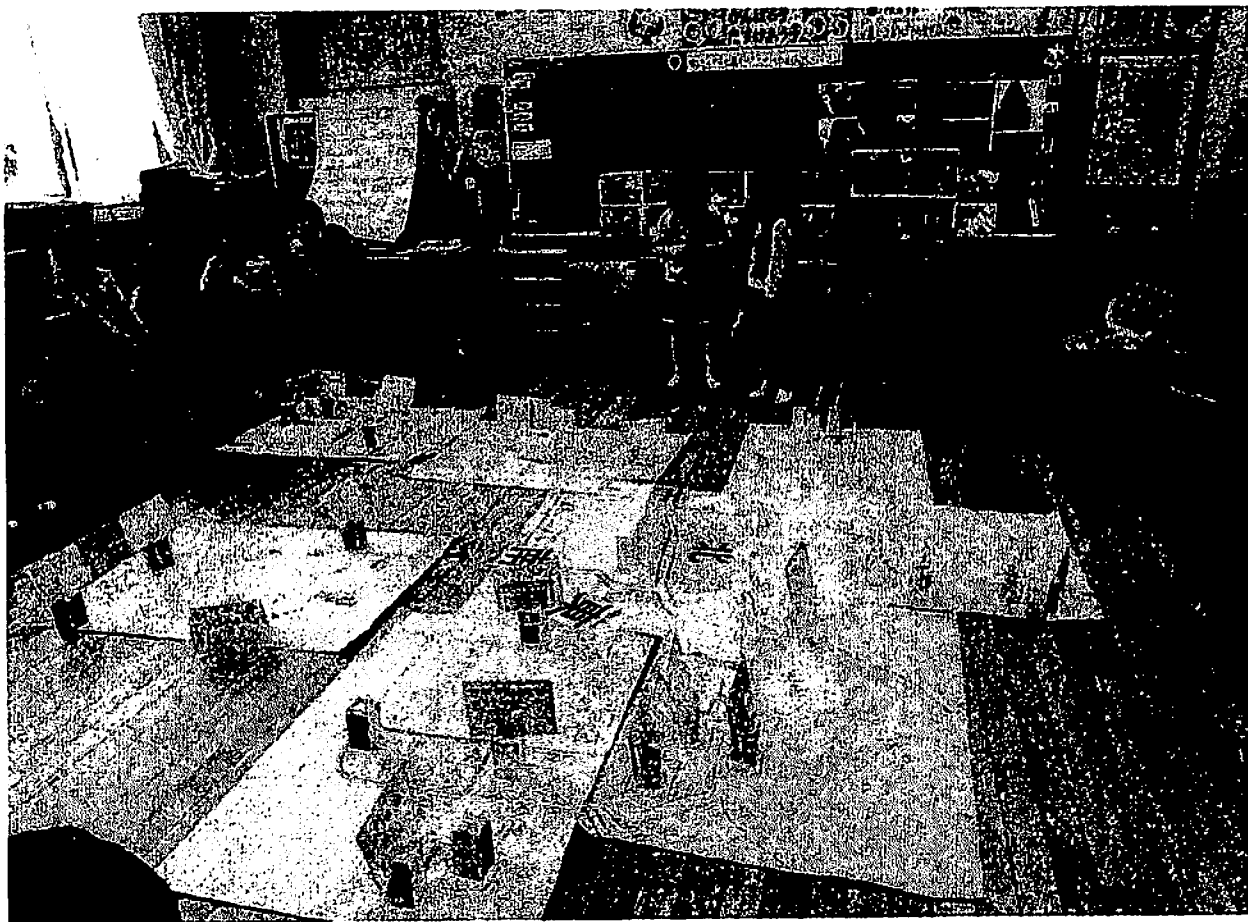
○表現方法を工夫して、自分の好きな場所や人、心に残った出来事などを伝えている。

（思考・表現）

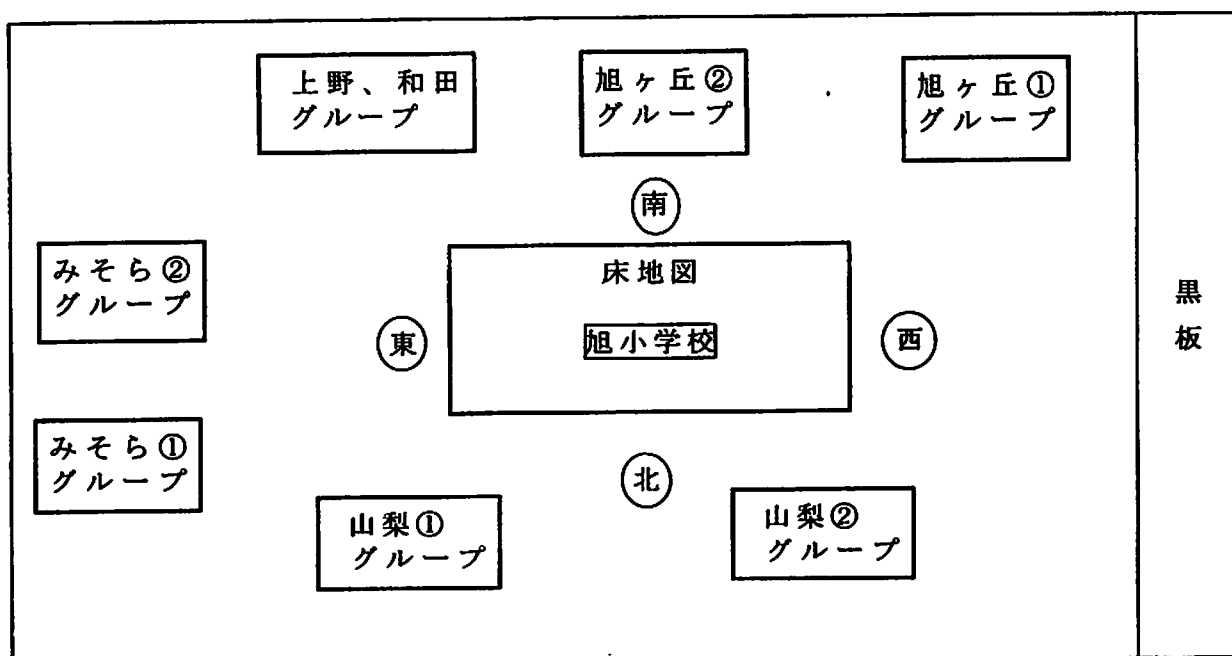
【床地図・発言】

- ・次の探検で行ってみたい場所が見つかった児童や知らなかったことで、「いいな。」と思うようなことがあった児童を発表させ、次の探検につなげるようにする。

グループで作った床地図をつないでいくと



(4) 場の設定

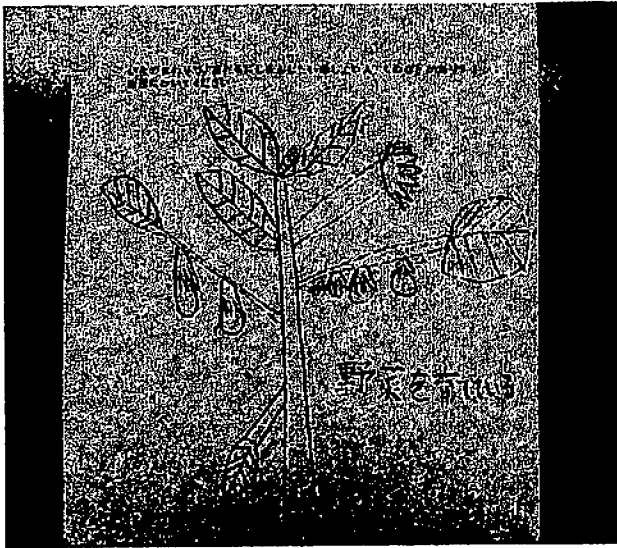


6 児童の変容

仮説1について

(1) 思いや願いを知る振り返り

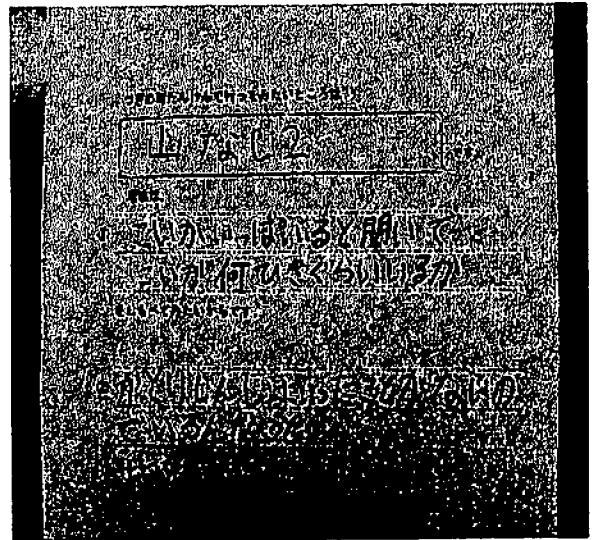
A児の振り返りカード



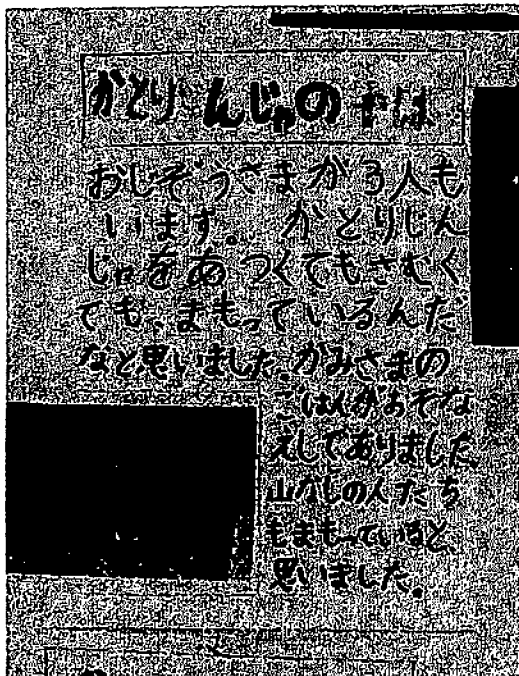
【実態調査】

新しくできた団地に住んでいるA児は、実態調査では家の周りで自慢できることを「野菜を育てている」としていた。

1回目の発表会後の振り返りでは、山梨地区の友だちの発表を聞いて「こい」や「かとりじんじゃ」に興味をもち、探検したいと希望した。

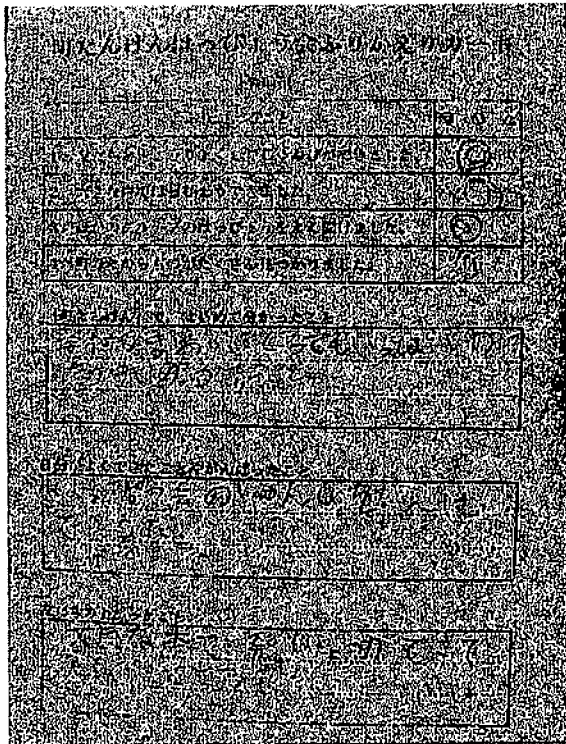


【1回目の発表会後の振り返り】



【ポスター】

2回目の探検は、山梨地区の小名木川や香取神社を探検した。そして、「かとりじんじゃ」のポスターを作った。山梨地区の人たちが、お供えをしていることを発見し香取神社を大切に守っていることに気付くことができた。



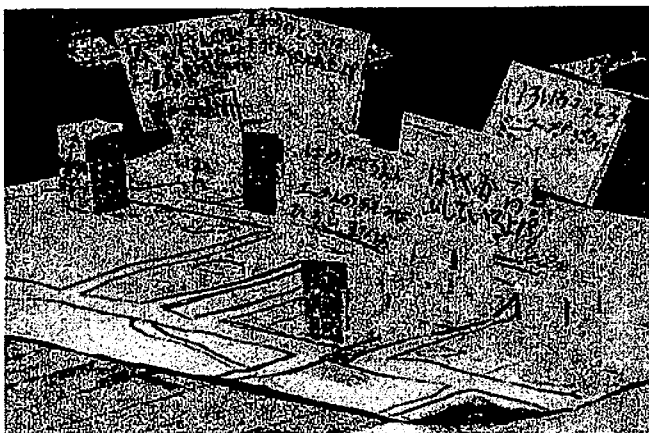
【単元の学習後の振り返りカード】

全ての項目に◎をつけ、自分のよさを見付けることができた。意欲的に学習できたことを表していると思われる。単元の学習を通して、「学校のまわりにとってもいっぱいのかからものがあること」が分かったと書いており、自分の探検したことだけでなく、友だちの発表したたからものについてもよさを認めていることが分かる。

仮説2について

（1）伝える相手を変えた2回の発表

床地図（立体）を使った1回目の発表会



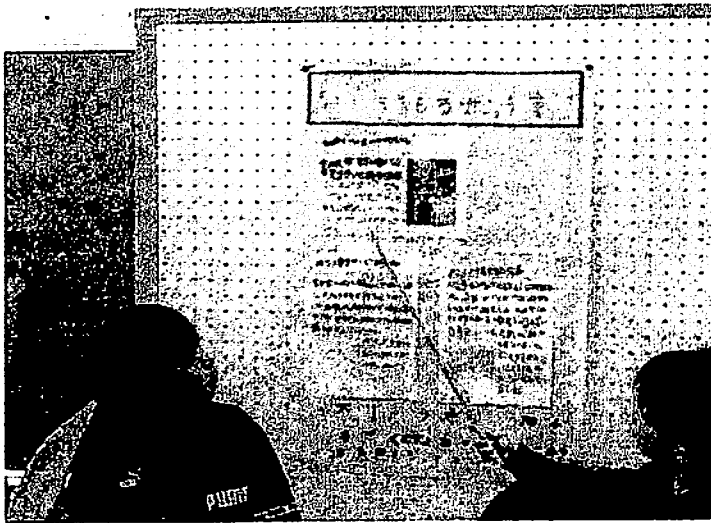
← 立体的な床地図は絵地図より、学校を中心とした地域全体が視覚的に理解しやすい。



【伝え方の工夫】

学校との位置関係を意識できるように、学校を中心とした床地図を作り、その場所のおすすめポイントを書いて、看板にして立てて発表資料とした。友だちに分かりやすく伝えるために、学校を起点として「門を出て右に曲がり、～」のように、床地図で探検の道順を示すと共に、自分たちが撮った写真を見せながら発表した。

ポスターを使った2回目の発表会



【友だちと協力して発表する工夫】

一人ひとりがポスターで書きたいことをグループで話し合ってから、各自のポスターの作成を行った。同じ内容にならないように気を付けているグループもあった。

グループのポスターに、タイトルを付けたりまとめを書いたりすることで、子ども同士で集めた情報を整理し、比べたり、関連づけたりするなど、気付きを高める工夫をした。

【地域の方々との対話の工夫】

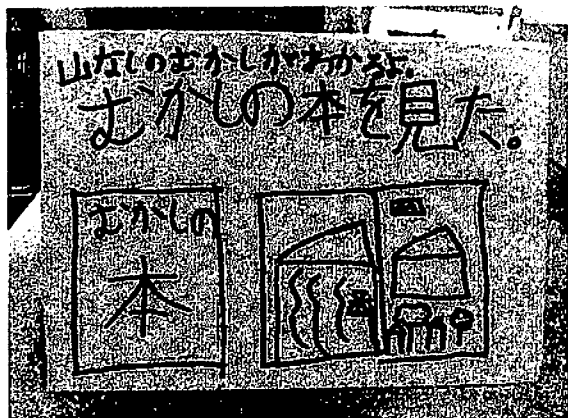
保護者や地域の人を招いて発表会を行った。発表原稿を用意して、「どうしてだと思いますか。」「この写真を見てください。」「質問や感想をお願いします。」という聞き手に話しかける発表の仕方をさせた。そのことにより、聞いている人たちから感想をたくさん聞くことができ、子どもたちは満足感をもつことができた。



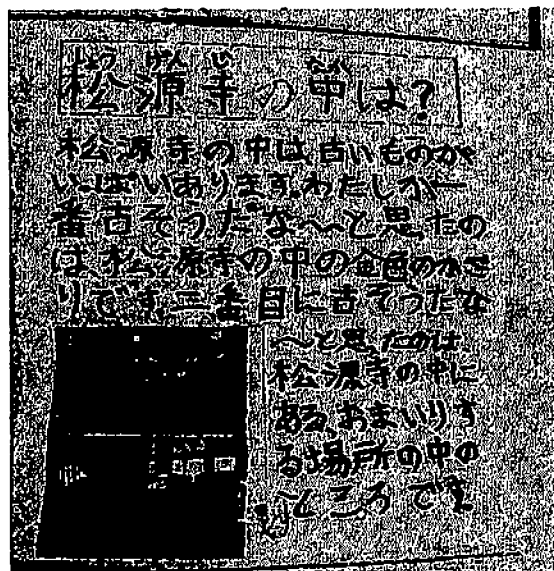
(2)伝える方法の工夫(看板とポスター)

2回の探検に、同じ場所を選んだB児

昔からある山梨地区に住んでいるB児は、実態調査では、家の近くで友だちに自慢したい場所として「神社」を挙げた。調べたいこととして、「階段が何段あるか。」と書いていた。

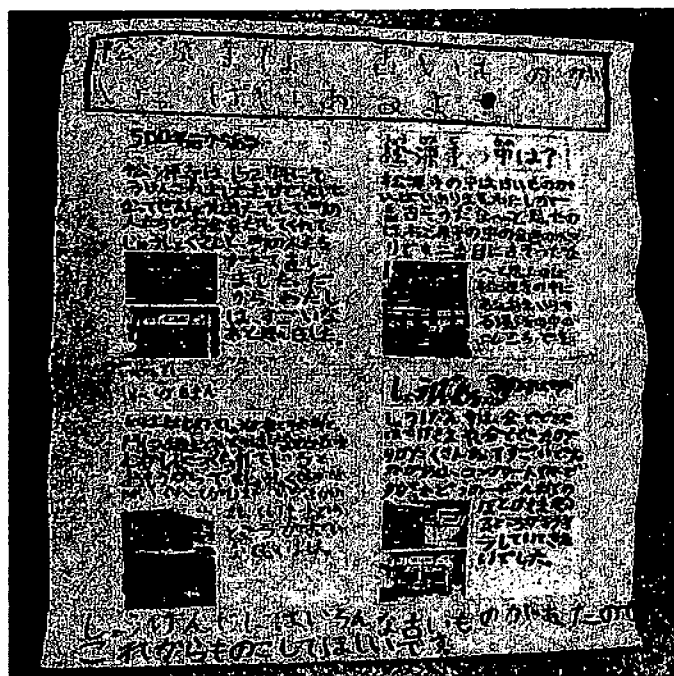


【床地図の看板】



【ポスター】

1回目の探検で山梨地区の探検をし、「松源寺は500年以上前に建てられたことが分かった。」と書いていた。さらに2回目の探検は、『500年以上前』という1回目の気付きから、もう一度山梨地区を探検し、古い物を探したいと希望した。地域にある古くからのお寺(松源寺)に興味をもち、お寺のお参りする場所や中の様子にまで、歴史があることと関連付けて考えるようになってきた。

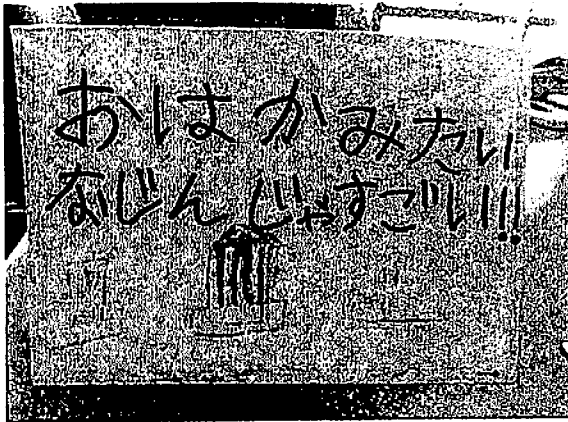


【グループでまとめたポスター】

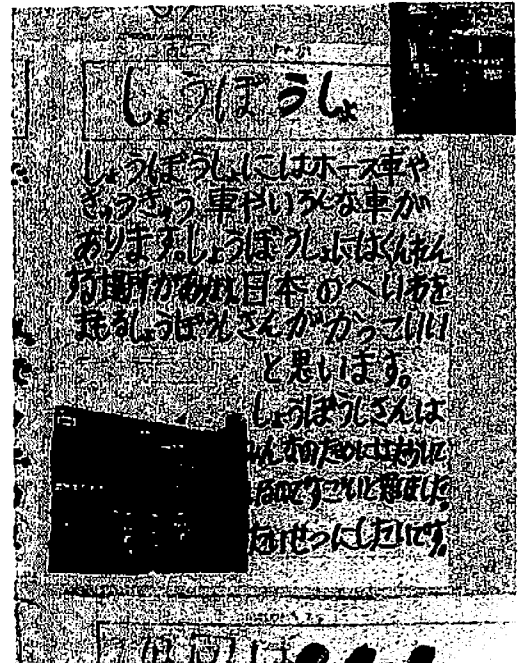
グループでの話し合いを通して、タイトルは「しょうげんじは、古いものがいっぱいあるよ」まとめは「しょうげんじにはいろんな古いものがあったので、これからものこしてほしい。」とした。古い物のよさを感じとっていることが分かる。

2回目の探検に、違う場所を選んだC児

新しく造成された団地に住んでいるC児は、実態調査では家の近くで友だちに自慢したい場所として「自分の家のサッカーゴール」を挙げた。調べたいこととして、「旭中学校の中を見学したい。」と書いていた。

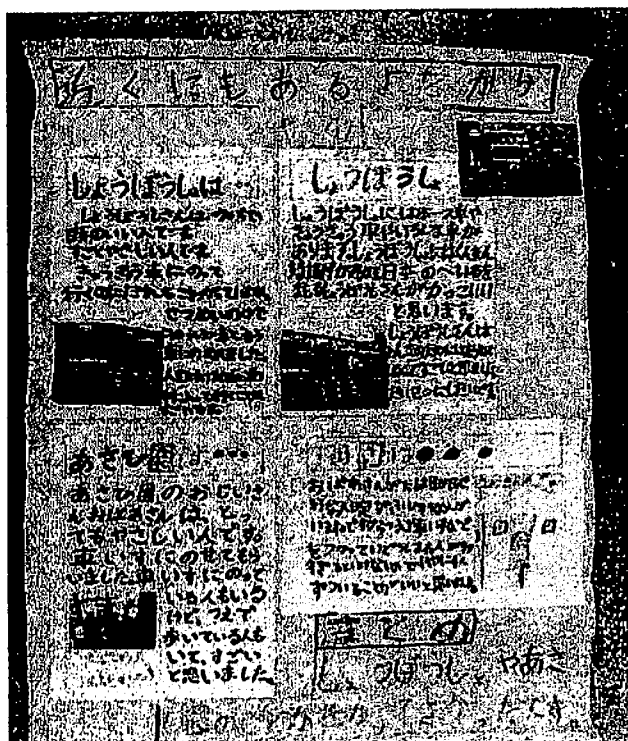


【床地図の看板】



【ポスター】

1回目の探検では、自宅の近くの旭中学校やうぶすな様を見学したが、友だちの発表を聞いて消防署に興味をもった。2回目の探検では、「消防士さんの服や消防車の中を調べてみたい。」と興味が広がってきた。探検を通して、「しょうぼうしさんはみんなのためにはたらいっているのですごいと思いました。」と、消防署と自分たちの生活との関わりに気付くことができた。



【グループでまとめたポスター】

グループでの話し合いを通して、タイトルは「ちかくにもあるよたからもの」、まとめは「しょうぼうしやあさひえんのことわかってよかったです。」とした。

学校のすぐ近くにありながら、これまであまり知らなかった施設に目を向け、それぞれの施設の働きが分かったことは、今後の地域での生活に役立つと思われる。

(3)振り返りカード (学習の最後に分かったことを記入したもの)

- A児 学校のまわりには、とってもいっぱいの中からものがあることがわかった。
- B児 いっぱいはっけんができたけど、一ぼんはっけんができたのは松げん寺です。
- C児 しょうげんじのおしょうさんは、しょうげんじのぜんぶがたいせつですきだと言っていたので、すごく親切な方だと思いました。
- D児 みかわやでわかったことは、すこしでもおきやくさんによるこぼれるものをしいれてきておみせにならべることです。
- E児 旭中学校は1クラス30人で、校長先生はいまの人を入れて15代め。がっきゅうはつばさがっきゅうとあおぼがっきゅうがありました。いろんなはっけんと町のたからものがわかりました。
- F児 交ぼんの一ぼんたいせつなことは、しみんのあんぜんといていたからすごいなと思いました。
- G児 かとりじんじゃは、中はちいさいけど古いものがたくさんありました。

<考察>

単元の学習前に自慢したい物として、公園や自分の家・商店などを挙げていた児童が多かったが、単元の学習を通して、地域に残る古い物や地域の人思いなどに気付き、見方を広げていることが見て取れる。

7 成果と課題

仮説1 児童一人ひとりの思いや願いを大切にしたい体験を工夫することについて

<成果>

- 実態調査や振り返りをとおして、児童の思いや願いを把握するように努めたことで、意欲をもって取り組むことができた。
- 児童の見方や考え方が広がるように、地域に残る古い物や自然、地域の人と関わるような探検を加えたことで、地域のよさや地域の人々の願いに気付くことができた。
- 1回目は「自分の家のある地区」、2回目は「行ってみたい地区」として体験を繰り返したことで、どの児童も自分の思いを実現することができた。

<課題>

- 1回目の発表と振り返りから、2回目の探検の計画を立てて実践したため、1ヵ月ほど間が空いてしまった。児童にとっては、すぐ2回目の探検ができることが望ましい。
- 児童一人ひとりの願いや思いを、思考ツール（ウェビングマップ、クラゲチャート等）を使って分類、整理、比較するようにすると、新しい視点やアイデアが生まれるので、積極的に取り入れていきたい。

仮説2 伝え合いの方法の工夫について

<成果>

- 1回目の発表会で、クラスの児童間で体験を交流させたことにより情報が共有でき、一人ひとりが2回目の探検の目的をもつことができた。
- 1回目は「床地図と看板でクラスの友だちに伝える」、2回目は「ポスターで友だちや家の人や地域の人に伝える」と表現の方法と相手を変えて行ったことで、徐々に深く地域のよさを考えることができた。
- 児童が聞いてほしいと願った保護者や地域の人に向けて発表することは、児童の意欲を高めることにつながった。また、参観者から誉められたことで、自信をもつことができた。

<課題>

- 1回目の発表会で「いいな。すごいな。」と思ったことを伝えるだけでなく、「ここが分からなかった。調べてほしい。」という視点での振り返りや伝え合いをすることで、次の探検がより深まるのではないか。
- 児童自身が成長に気付けるような振り返りについては、実態調査と同様に『たからもの』を挙げさせるなど、検討していく必要がある。